



CLT最新情報 & 平成30年度断熱リノベ

CLT改正

<http://www.mlit.go.jp/common/001228749.pdf>

直交集成板(CLT:Cross Laminated Timber)建築物の構造計算に必要なCLTの基準強度のうち、床や屋根に求められる長期の曲げ性能やせん断性能については使用できる層構成が新たな実験結果により性能が確認された層構成を基準に追加することになりました。

- ① 従来より薄い層構成のCLTが使用できる
- ② 合理的で自由度の高い設計が可能になる

改正の概要

- CLTの積層方向かつ強軸方向 3層3プライ、3層4プライを追加
- CLTの積層方向かつ弱軸方向について 5層5プライ、5層7プライを追加

CLT補助金

2018年5月よりCLTの補助金もスタートします
㎡あたり15万円を上限に全額補助を行う

国土交通省、建設資材の購入費を直接助成する制度

建設会社が木材を使った新建材を購入する費用を補助する制度

開始	2018年5月
対象	強度が高い「直交集成板」(CLT)と呼ばれる建材
補助金額	1㎡あたり15万円を上限に全額補助

他にも…

建築基準法の
告示を改正

CLTを使いやすくするため
建築規制を緩和

今まで

木造建築の床や屋根に使用できるCLT木板を
最低5枚重ねたものに限る

現在

木造建築の床や屋根に使用できるCLT木板を
3枚重ねでも使える

CLTは海外でも、英国では建設が進んでいます、欧州各地で普及しているCLT
海外への視察も多くの事業者が行っています。

数年前からCLTは話題にのぼっていましたが、これからが本格的なスタートとなってい
きそうですね。今後の動向について注視していく必要があります。

鉄筋コンクリート建築とCLT建築の違い

【鉄筋コンクリート建築】

施工部分を乾かすための期間が必要
1階当たり10日程度

【CLT建築】

工場で加工されたパネルを
現場で組み立てるだけ

※ 工期短縮が可能

CLT 建築 の 課題

- ・強度や耐火性が不安視されている
- ・施工例が少ない
- ・建築や維持管理におけるノウハウが乏しい
- ・価格が高い（2018年4月現在は1㎡あたり15万円）

政府、林業や木材加工会社の生産性を高め、
7万～8万円（欧米並み）に引き下げる目標

平成30年度高性能建材による住宅の断熱リフォーム支援事業 「断熱リノベ」ホームページ

http://sii.or.jp/moe_material30/

平成29年度断熱リノベと同様に、今年も断熱リノベに補助事業がスタートします。
ホームページ上では事業説明会についての日程も出てきています。

説明会の日程についてはこちら

http://sii.or.jp/moe_material30/#koubo